

会社名:	有限会社 ホリケン	承認	承認	承認	承認	承認	承認
第120回 安全衛生協議会		議事録					
実施年月日	2022年6月10日 金曜日	議事録作成者		[REDACTED]			
責任者	堀 峰也	出席者		別紙参照			
《安災システムにて開催致しました》		2 ゼロ災運動		【25分】			
1 全国安全週間	【25分】	理念3原則					
令和4年7月1日(金)~7月7日(木)		1.ゼロの原則・・・単に死亡災害・休業災害だけがなければよいという考えではなく、職場や作業に潜むすべての危険を発見・把握・解決し、根底から労働災害をゼロにしてゆこうという考え方。					
準備期間令和4年6月1日(水)~6月30日(木)		2.先取りの原則・・・究極の目標としてのゼロ災害・ゼロ疾病の職場を実現するために、事故・災害が起こる前に、職場や作業にひそむ危険の芽を摘み取り、安全と健康(労働衛生)を先取りすること。					
令和4年度の「全国安全週間」スローガン : 「安全は急がず焦らず怠らず」		3.参加の原則・・・職場や作業にひそむ危険を発見・把握・解決するために、全員が一致協力してそれぞれの立場・持ち場で自主的、自発的にヤル気で問題解決行動を実践することをいいます。					
第95回全国安全週間について		推進3本柱					
今年で95回となる全国安全週間は、労働災害を防止するために、産業界での自主的な活動の推進と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を目標としています。		1.トップの経営姿勢・・・安全衛生は、まずトップのゼロ災害・ゼロ疾病への厳しい経営姿勢に始まる。「働く人一人ひとりが大事だ」、「一人もケガ人は出さない」というトップの人間尊重の決意から運動は出発します。					
事業場では、労使が協調して労働災害防止対策を展開し、労働災害は長期的に減少してきました。しかし、近年は、就業人口が高齢化し、高年齢労働者の労働災害や、転倒や腰痛などの労働者の作業行動に起因する労働災害が顕著に増加しています。これらの災害は、事業者が行う対策だけで防ぐことが困難な場合もあるため、災害防止に向け労使一丸となった取組が求められています。		2.ライン化の徹底・・・安全衛生を推進するには、管理監督者(ライン)が作業の中に安全衛生を一体に組み込んで率先垂範して実践することが不可欠です。ラインによる安全衛生管理の徹底が第二の柱。					
このような状況下で労働災害を減少させるには、事業者・労働者双方が労働災害防止のための基本ルールを徹底し、それらを遵守・実行するための時間的・人力的余裕のある業務体制を構築することが重要です。そのため、今年度は、「安全は急がず焦らず怠らず」のスローガンの下、全国安全週間を実施します。		3.職場自主活動の活発化・・・一人ひとりが危ないことを危ないと気付き、自主的、自発的にヤル気で安全な行動をするような実践活動がなければ、職場の日々の安全を確保することはできません。					
厚生労働省では、全国安全週間と合わせて、6月1日(水)から30日(木)までを準備期間として、安全広報資料等の作成・配布、安全パトロールの実施、労働安全に関する講習会の開催など、さまざまな取組を実施します。		3 必須動画		【5分】			
		・防ごう熱中症！					
		・災害事例					

